

## 斑点米カメムシ類の水田内への侵入早く、発生量が多い ～出穂期を的確に把握し、2回の防除を適期に行ってください～

◎病害虫名：斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）  
○発生物種：水稲 ○発生地域：全県 ○発生時期：やや早い ○発生量：多い

### 1. 注意報発表の根拠（現在までの発生状況と今後の発生予想）

- (1) 8月1半旬に行った抽出ほ場調査（80地点）における水田内での斑点米カメムシ類のすくい取り数は9.1頭（平成2.3頭）で多かった。うち、アカスジカスミカメ（以下、アカスジ）は7.4頭（平成1.6頭）、アカヒゲホソミドリカスミカメ（以下、アカヒゲ）は1.7頭（平成0.6頭）でいずれも多かった。同調査における斑点米カメムシ類の発生地点率は75.0%（平成39.0%）で高かった。うち、アカスジは58.8%（平成26.8%）、アカヒゲは41.3%（平成19.6%）でいずれも高かった（表-1、図-1）。  
水田内にノビエやカヤツリグサ科雑草が発生しているほ場では、アカスジの発生が特に多く（表-2）、100頭を超えるほ場もあった。
- (2) 水稲の出穂は平成より早まっており、各地域振興局の調査では、全県の出穂期（ほ場全体の40～50%が出穂した日）は7月31日となった。
- (3) 8月5日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いとされている。

以上のことから、水田内における斑点米カメムシ類の発生量は多く推移することが予想されるため、今後、斑点米被害の増加が懸念されるので、以下の対策を行う。

### 2. 防除対策

- (1) 水稲の出穂が平成より早まっているので、出穂期を的確に把握し、適期防除に努める。  
また、無人航空機などによる防除を計画しているところでも、計画の前倒しや個人防除での対応など、防除時期を逸しないよう注意する。
- (2) 1回目の防除は、出穂期10日後頃にアルバリン剤又はスタークル剤を、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布する。
- (3) (2)の散布当日から7日後までに畦畔や農道の草刈りを行い、アカスジの増殖源となるイネ科雑草の除去に努める。
- (4) 2回目の防除は、出穂期24日後頃にエクシード剤又はキラップ剤を茎葉散布する。

### 3. その他

- (1) 殺虫剤を散布する際は、養蜂業者などと連携をとり、みつばちなどへの危害防止に努める。
- (2) 巣箱の設置場所が近接している場合は、みつばちが水田に飛来してくることがあるので、みつばちの活動が最も盛んな時間帯（午前8時～正午）を避け、できるだけ早朝又は夕方に農薬散布する。

#### 4. 資料

表一 水田内における斑点米カメムシ類すくい取り結果(8月1半旬)

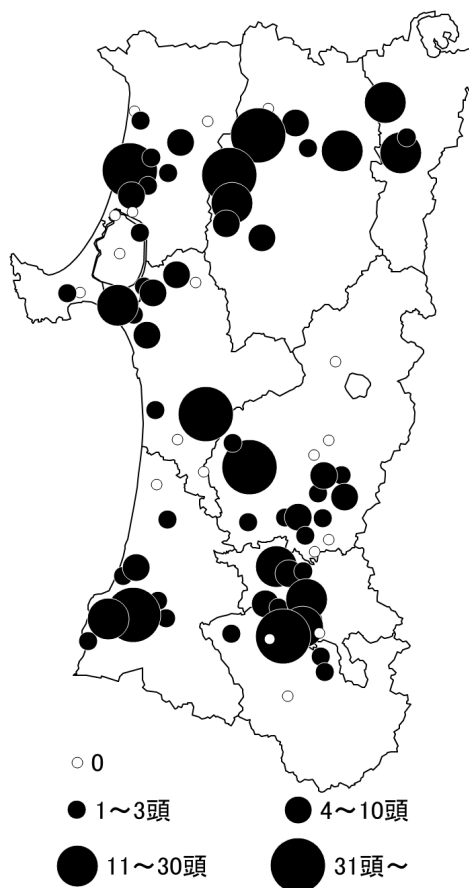
	斑点米カメムシ類		アカスジ		アカヒゲ	
	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)	すくい取り数(頭)	発生地点率(%)
本年	9.1	75.0	7.4	58.8	1.7	41.3
平年	2.3	39.0	1.6	26.8	0.6	19.6
概評	多	高	多	高	多	高

※すくい取りは20回振りで行った

表二 水田内雑草の発生状況別すくい取り数(8月1半旬)

雑草の発生状況 (ノビエ・カヤツリグサ科雑草)	雑草発生状況 別地点率(%)	アカスジ(頭)	アカヒゲ(頭)
1本/m <sup>2</sup> 以上	22	20.3	3.1
1本/m <sup>2</sup> 未満	29	5.2	1.9
発生無し	49	3.4	0.9

※すくい取りは20回振りで行った



図一 本田内における斑点米カメムシ類のすくい取り数(8月1半旬)

#### 【問合せ先】

秋田県病害虫防除所                      TEL 018-881-3660  
 秋田県農業試験場                        TEL 018-881-3326  
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>